

社会資本総合整備計画 社会資本整備総合交付金

令和05年04月01日

計画の名称	魅力と賑わいのある中心市街地の創出（第Ⅱ期）												
計画の期間	令和04年度～令和07年度（4年間）								重点配分対象の該当	○			
交付対象	岡山市												
計画の目標	岡山市が目指す賑わいのある中心市街地の創出に向けては、人が集い、憩える、魅力ある空間づくりを面的に展開することにより、まちなかの回遊性を向上させ、まち全体の賑わい創出につなげていくことが重要である。 このため、市民だけでなく来訪者も含めた多くの方々に、まちなかを楽しんでもらえるような魅力ある空間づくりを目指し、公共空間の再構築・バリアフリー化等による快適な歩行空間の確保や沿道事業者等との連携により、低未利用地や道路空間の利活用に向けた検討を行うなど、官民連携による都市再生（リノベーション）を進めるとともに、取組を広げていくための調査・検討を行う。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	377	A	377	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H29		R7末
1	中心市街地の歩行者通行量の増加（平日） 表町・駅前・奉還町の各商店街を中心とした商業集積エリアの主要地点における歩行者通行量調査の全地点平均を算出する。（平日）	4324人／日	人／日	4400人／日
2	中心市街地の歩行者通行量の増加（休日） 表町・駅前・奉還町の各商店街を中心とした商業集積エリアの主要地点における歩行者通行量調査の全地点平均を算出する。（休日）	5654人／日	人／日	5700人／日
3	歴史・文化ゾーンの来訪者増加 岡山カルチャーゾーン連絡協議会加入施設への来訪者数を調査する。（既存施設の改修による休館等は考慮していない）*当初現況値はR1年の数値	309万人／年	万人／年	328万人／年

備考等	個別施設計画を含む	—	国土強靱化を含む	—	定住自立圏を含む	—	連携中枢都市圏を含む	—	流域水循環計画を含む	—	地域再生計画を含む	—	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---------------

A 基幹事業																				
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												R04	R05	R06	R07	R08				
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	岡山市	直接	岡山市	—	—	都市再生整備計画事業(岡山都心地区)	A=382.5ha	岡山市	■	■	■	■		377		—	
											小計						377			
											合計						377			

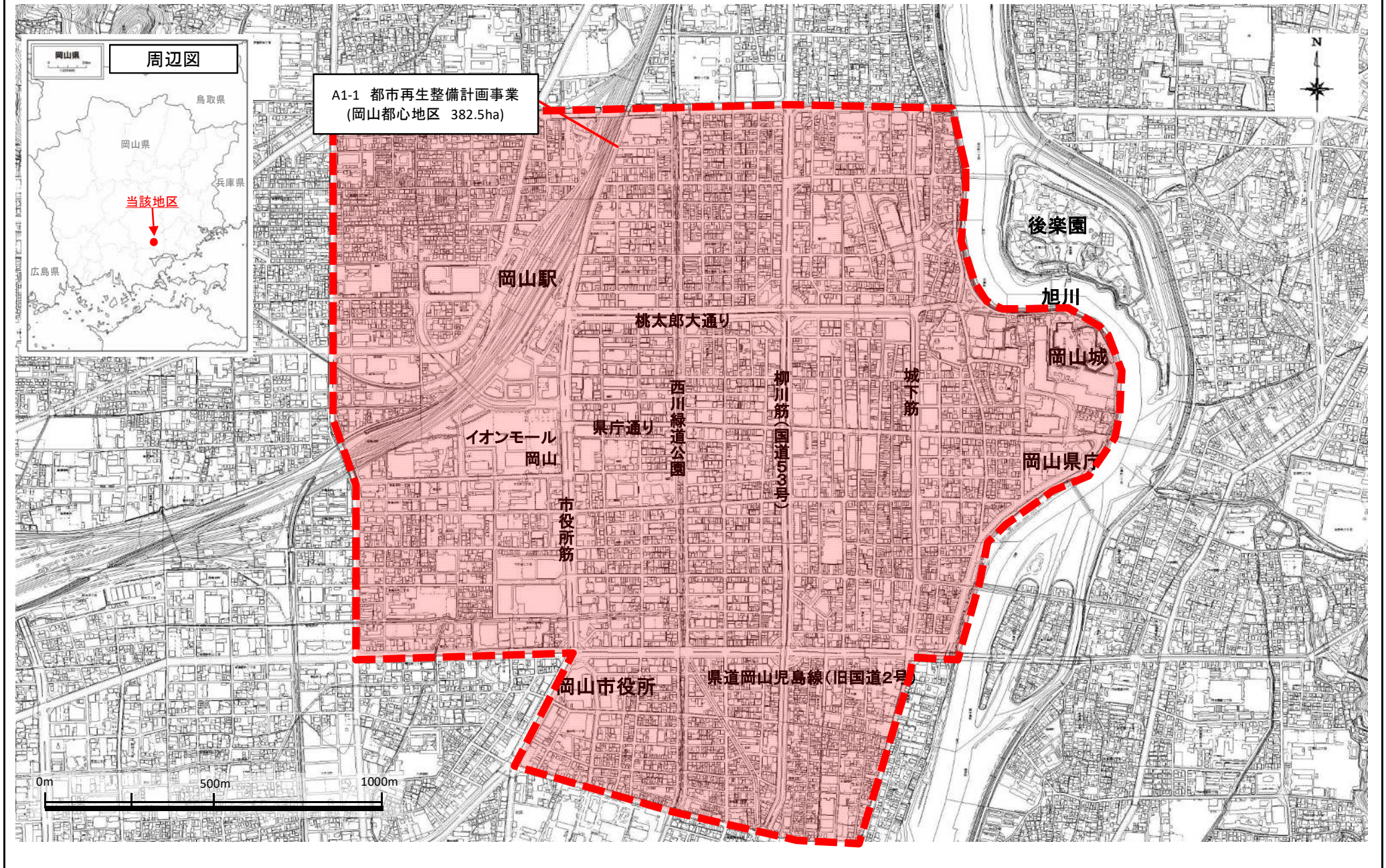
交付金の執行状況

(単位：百万円)

	R04	R05			
配分額 (a)	37	19			
計画別流用増△減額 (b)	0	0			
交付額 (c=a+b)	37	19			
前年度からの繰越額 (d)	0	15			
支払済額 (e)	22	0			
翌年度繰越額 (f)	15	0			
うち未契約繰越額 (g)	2	0			
不用額 (h = c+d-e-f)	0	34			
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	5.4	100			
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由					

参考図面（社会資本整備総合交付金）

計画の名称	魅力と賑わいのある中心市街地の創出（第Ⅱ期）		交付対象	岡山市
計画の期間	令和4年度～令和7年度（4年間）			



事前評価チェックシート

計画の名称： 魅力と賑わいのある中心市街地の創出（第Ⅱ期）

事 前 評 価	チェック欄
I. 目標の妥当性 ①都市再生基本方針との適合等 1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
I. 目標の妥当性 ①都市再生基本方針との適合等 2) 上位計画等と整合性が確保されている。	○
I. 目標の妥当性 ②地域の課題への対応 1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
I. 目標の妥当性 ②地域の課題への対応 2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性 ③目標と事業内容の整合性等 1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 ③目標と事業内容の整合性等 2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 ③目標と事業内容の整合性等 3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 ③目標と事業内容の整合性等 4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性 ③目標と事業内容の整合性等 5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
II. 計画の効果・効率性 ④事業の効果 1) 十分な事業効果が確認されている。	○
II. 計画の効果・効率性 ④事業の効果 2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性 ⑤地元の熱意 1) まちづくりに向けた機運がある。	○
III. 計画の実現可能性 ⑤地元の熱意 2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
III. 計画の実現可能性 ⑤地元の熱意 3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
III. 計画の実現可能性 ⑥円滑な事業執行の環境 1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○

